

札幌市立ひがしなえぼ幼稚園の取組【雪に関する教育課程】

1 研究のねらい

本園では、「自分で考えて実現できる子を目指して」を今年度の研究主題として実践に取り組んでいる。また、昨年度までの研究の取組の成果を受け、意欲的に体を動かして遊べるようになるために発達に応じたいろいろな体の動きを引き出すことを意識している。

積雪のある札幌の冬の戸外環境は、幼児にとって体を動かして遊んだり、雪の感触を味わったり、思考を巡らせながら遊んだりするのに大変有効な環境である。しかし、最近では、冬期間は室内に閉じこもりがちな家庭が多く、雪に触れて遊ぶことの楽しさを知らない幼児が多く見られる現状がある。

そこで、幼稚園で雪に親しみながら体を動かす遊びを積極的に取り入れること、自分で考えて実現する体験ができる活動を計画した。保護者とともに取り組むことも研究の取組である。このテーマで研究を進め、豊かな実践に努めることで、生き生きと体を動かして遊ぶことを楽しむ幼児を育むとともに親子で共通の経験をもつことにより、コミュニケーションを促し、家庭においても雪に親しみ、雪遊びを楽しむ心が育まれることを願っている。

2 取組内容

(1) 保育環境の工夫

① 園庭の環境

園庭に雪山を作り、幼児が「やってみたい!」「滑ってみたい!」と思えるような大判のマット、チューブなどを用意した。雪山は教師の手づくりであるため、幼児にとって適度な高さであり、3歳児でも上り下りしやすい環境である。また、そりなどで滑るだけでなく体全体を使って滑る、転がる、雪面を登るなどの動きを自分なりに試しながらできる斜面もある。

教師は、雪合戦、雪だるま、かまくらづくりなど雪質に応じた遊びに誘いかけ、投げる、掘る、押すなど体の様々な動きや道具を使った身体の動きの経験もできるようにしている。

かまくらづくりでは、友達と一緒に同じ目的をもって力を合わせて遊んでいる。また、スノーソーを使って切り出した雪の塊を積み上げてかまくらを作るなど、今年度は新しい経験を楽しむことができている。



② 地域の環境との関わり

園の近隣にある公園へ定期的に散歩に行き、築山を利用して遊んでいる。園庭の山に比べ、スロープが長いことや、一学級のみでの少人数で遊ぶため、広い環境で何度も滑ったり登ったりすることができ、各々のペースでのびのびと体を動かして遊ぶことができる。

また、近隣の小学校との連携として年長児と1年生の交流を行っている。1年生が「雪のホテル」「雪うさぎ」の雪像を作って年長児を招待してくれた。幼児にとっては遊びを広げる刺激や1年生への憧れをもつ機会となっている。

(2) 親子での行事の取組

① 親子遊ぼうDayの取組

保育参観の一環として「親子遊ぼうDay」を設定し、親子で一緒に遊びながら、幼稚園の教育について知ってもらう行事が一年に数回実施している。2月の「遊ぼうDay」では親子で雪遊びを楽しんでもらう計画を立てている。年少・年中児だけでは作ることが難しいスノーキャンドルを保護者の力を借りて一緒に作り、それを園庭に飾り、キャンドルナイトとして冬の夜、自分たちが作ったものにロウソクが灯ることが楽しめるようにしている。

年長児は保護者と一緒にかまくらやイグルーづくりを行ったりすることも計画し、遊びを通して友達と力を合わせることや、目的や見通しをもって遊ぶことを経験することができている。また雪山登り、そり滑りなど、親子一緒に体を動かして遊ぶことを通して幼児が生き生きと遊ぶ姿を見てもらったり、体力作りができることを家庭に知ってもらったりしている。

② キャンドルナイトの取組

上記の「親子遊ぼうDay」、保育の中で作ったスノーキャンドルを園庭に飾り、夕方、園の保護者だけでなく、地域の方々にも見てもらい、喜んでいただく地域行事として園で取り組んでいる。幼児にとって自分たちが作ったもので地域や保護者に喜んでもらえる満足感をもつことができている。また、親子でキャンドルが灯る幻想的な空間を一緒に見たり、触れたりしてその美しさを共有し、札幌の冬を楽しんでもらうことができる一日となっている。



3 成果と課題

ともすると、室内に閉じこもりがちになってしまう幼児と保護者に積極的に園から働きかけることで自分たちから雪の戸外に出て遊びを楽しむようになってきている。幼児の遊びの発想は豊かであり、雪を使って多様な遊び方を楽しむようになってきている。ボウルに雪を詰め、合わせたものを慎重に積んでオブジェのようなものを作った幼児や、雪の塊を削ってかき氷とする幼児など、雪への親しみ方は様々である。



私たちは園の研究主題につながる実践として、多様に変化する雪や氷の環境に幼児自ら好奇心や探究心をもって関わり、雪の感触を存分に味わい、楽しむことができるように積極的に環境を整え、雪に直接関わる体験を通して幼児の興味関心が広がっていくような働きかけたい。